

平成 21 年度大磯町教育委員会第 10 回定例会会議録

1. 日 時 平成 22 年 1 月 20 日 (水)
開会時間 午前 9 時 00 分
閉会時間 午前 11 時 35 分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎 4 階第 1 会議室
3. 出席者 大 橋 伸 明 委員長
岩 井 喜久枝 委員長職務代理者
石 塚 洋 委員
清 田 義 弘 委員
福 島 睦 恵 教育長
二挺木 洋 二 子ども育成課長
林 正 人 子ども育成課主幹
大 隅 則 久 子ども育成課子育て支援室長
和 田 勝 巳 生涯学習課長
山 口 章 子 生涯学習課図書館主幹
佐 川 和 裕 生涯学習課郷土資料館主幹
山 口 信 彦 子ども育成課主査
片 野 剛 志 子ども育成課主事
4. 傍聴者 3 名
5. 前回会議録等の承認
6. 教育長報告
7. 付議事項
議案第 24 号 平成 22 年度当初予算における教育委員会予算要求について
8. 協議事項
協議事項第 1 号 次世代育成支援地域行動計画（後期計画）【素案】について
9. 報告事項
報告事項第 1 号 第 8 回図書館まつりの実施報告について
報告事項第 2 号 平成 21 年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの実施報告について
10. その他

(開 会)

出席委員が 5 名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第 14 条及び第 19

条の規定により傍聴を許可します。暫時休憩ののち傍聴人が入室し再開した。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

教育長報告

教育長) 私からは、12月定例会が開催されました平成21年12月16日から本日までの教育委員会諸行事等について報告させていただきます。12月17日、22日、大磯幼稚園、月京幼稚園、国府幼稚園において、保育発表会を開催いたしました。12月19日、大磯町立学校PTA連絡協議会と教育委員との懇談会を開催し、様々な課題や要望等について、各園、各学校のPTA役員の方々と意見交換を行いました。12月24日、福祉文教常任委員会において、12月議会で継続審議となっております生涯学習館条例等の改正についての審査があり、生涯学習館、図書館、郷土資料館における使用料関係の改正条例については、残念ながら、福祉文教常任委員会では承認をいただけませんでした。年が明けまして、1月5日から図書館窓口業務委託が始まり、順調に業務が進められております。1月9日、インフルエンザの関係で順延になっておりました、教育研究所主催の小中学校音楽会が平塚市民センターにおいて開催され、大変多くの方にご来場いただきました。1月10日、大磯プリンスホテルにおいて、成人式及び新成人記念の集いを開催し、当日は220人の新成人の参加がありました。詳細は後ほど事務局から報告いたします。1月13日、中地区教育長会議に出席しました。会議の内容については、県の大変厳しい財政状況の説明と県の組織改革等の説明、教職員の仮配当の話がございました。また、平成22年度の指導課関係事業の方針等がありました。さらに全国学力学習状況調査、新型インフルエンザでの学級閉鎖、給食費の返金等について情報交換を行いました。1月16日、国指定重要無形民族文化財行事である大磯の左義長が行われました。今年も、早朝から、北浜海岸におきまして、大磯中学校1年生126名の生徒が、地元の方々と一緒に、サイトづくりの手伝いをしておりました。そのほか、旧吉田茂邸再建基金への寄附が2件ございました。12月24日に大磯中学校生徒会から、1月15日に新成人記念のつどい実行委員会からそれぞれございました。町長から感謝状が贈られました。その他の諸行事につきましては執行報告表のとおりであります。また、今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。

議案第24号 平成22年度当初予算における教育委員会予算要求について

書記が議案を朗読し、教育長から提案理由の説明を行った。

子ども育成課長) まず、はじめに私の方から予算の平成22年度予算概要につきまして説明いたします。議案の方の別紙を見ていただきますと、その前に一般会計予算の平成22年総計が例年ですと、数字が固まっているのですが、今年度については、子ども手当の関係で昨日漸く固まりまして、本日の資料にはその分が入ってございません。それと後、国の方で臨時交付金がありまして、地域活

性化・きめ細かな臨時交付金が出されまして、それで財政課の方で当初予算に要求されたもので、当初予算で見込まれないものにその交付金を入れ込むとか、当初予算に要求されたものをその交付金に替える作業をやっておりまして、数字の固まりが遅れております。現在ですと一般会計の予算額は 8,250,000,000 円ほどとなると聞いております。子ども手当が入ると 8,750,000,000 円くらいになるかと思えますけれども。子ども手当を入れて去年の予算額くらいに落ちている状況でございます。教育委員会の関係の教育費でございますけれども、別紙の方に教育費の合計が 660,219,000 円とございます。これは今年度からスポーツ関係が抜かれましたので、前年度との比較につきましては、45%の減で、減の大きな理由といたしましては、国府中学校改修事業、月京幼稚園施設整備事業、国府幼稚園改修工事等の終了によって減しております。事務局の人件費の減もあります。説明資料の最後のグラフを見ていただきますと、教育費性質別予算推移で、真中にあります投資的事業が 533,000,000 から 30,000,000 程度に減になったということ。それと人件費につきましても約 400,000,000 あったものが 350,000,000 ということで、これは機構改革に伴いまして、スポーツの関係の事務職の職員が 2 名、それと子ども育成課の方の職員が 2 名、中学校で 1 名、小学校で 1 名、図書館で 1 名、差し引き 6 名の減員となりまして、50,000,000 円の減となっております。投資的事業につきましては、国府中学校、新幼稚園整備、国府幼稚園改修などの終了により減となっており、22 年度は、国府小学校学校プール整備の設計、国府中学校グラウンド整備の設計、郷土資料館改修工事、月京幼稚園解体工事、小磯幼稚園フェンス工事等の総額 30,000,000 円程度となります。子育て支援室関係の児童福祉費につきましては、保育園関係の人件費が減となっております。それとその他の経費が保育園の民営化によるサンキッズへの補助金を出しているのですが、そういったものが平成 19 年から伸びている、民営化して伸びているのはおかしいというのがありますが、人権費が減って、民営化に伴って補助金が増えていますが、現実には歳入も増えているということで、20 年度決算では 20,000,000 円程度が民営化に伴って、良くなっているという状況でございます。このグラフだけ見ますと民営化に伴いまして、サンキッズに出す分だけ増えているように見えますがそういった状況でございます。以上、簡単ではございますが、教育委員会関係の平成 22 年度予算概要の説明とさせていただきます、各個別事業につきまして担当より説明いたします。

子育て支援室長) 子育て支援室関係の予算につきまして説明させていただきます。児童福祉総務費といたしまして要求額が 150,253,000 円、前年度予算額が 145,104,000 円ということで比較をして 5,149,000 円の増となっております。要求額としては 172,499,000 円ということですので 22,246,000 円、要求額から見て査定されたこととなります。こちらにつきましては、小児医療助成事業費の中で対象者を中学校卒業まで拡大する方向で予算化してございましたが、そちらが予算化できなかったということで、現状の小学校卒業までの対象者となったことによって、当初の予定より大きな減額となっております。児童措置費が 190,096,000 円で前年度予算額が 185,101,000 円ということで比較をして 4,995,000 円という形ですが、先ほど説明いたしましたとおり、こちらにつきましては児童手当の経費として当初見込んでありますので、子ども手当に差し替える状態でございます。子ども手当の予算としては総額として 510,000,000 円の予算要求となります。続きまして保育園費になります。予算額が 277,528,000 円で前年度予算額が 289,958,000 円ということで比較をして

12,430,000 円の減となっております。こちらにつきましては待機児童が増えている関係で「5. 保育所の待機児童解消のため、町内民間保育所の増改築を行い入所定員の拡大を図る、改修費に係る補助金」が予算として認められておりません。当初要求の差額といたしましてその辺が大きくなるところとなっております。児童福祉施設費の予算額が 6,018,000 円で前年度予算額が 100,000,000 円ということで比較をして 93,982,000 円の減となっております。こちらは子育て支援センターの建設経費がありましたので、今年度は減となっております。こちらは当初の要求から若干増えてございますが、維持管理委託料の見直しがございましたので増額となっております。幼稚園費の予算額は 180,121,000 円で前年度予算額が 538,779,000 円ということで比較をして 358,658,000 円の減となっております。こちらにつきましても、たかとり幼稚園の建設工事がありましたので減額となっております。また、当初要求から見ますと 9,619,000 円の増額という形になっておりますが、まず、「幼稚園連絡業務用公用車の買い替え」については予算が付きませんでした。逆に月京幼稚園の解体工事にかかる経費が今年の 4 月からということで、新年度予算への振り替えを当初は予定していなかったのですが、振り替えたために増額となっております。

子ども育成課主幹) 引続き、子ども育成課関係の補足説明をさせていただきます。資料の 2 ページから 3 ページをお開きください。まず、予算科目の教育総務費でございます。本年度予算額 1,65875,000 円、前年度予算額と比較いたしますと、29,835,000 円の減でございます。減額の主なものとしては、人件費でございます。今年度の事務局の人件費につきましては、昨年度末に機構改革があり人員的には、4 名の減でございましたが、当初予算の段階では、機構改革前の人数で予算計上してございましたので、このような結果となっております。主な事業等の要求内容は、「5. 支援を必要とする園児・児童・生徒の教育活動の推進のため、教育支援員を配置する」ということで昨年引き続き、教育支援員を幼小中に配置するものでございます。昨年度より若干の増額となりましたので、現在の支援員 29 名の人員増か時間数の増を考えております。次に、7、8 は教育研究所事業ですが、3 つあった事業を次年度は 1 つの事業にまとめまして「教育研究所維持管理運営事業」といった形でまとめさせていただきます。事業内容・予算額とも、今年度とほぼ同様でございます。次の「9. 児童用図書」の関係ですが、今年度に引続き、ほぼ同額の予算で図書の購入ができる見込みでございます。最後の「10. 高等学校等への就学が困難な者への補助制度」ですけれども、高校の無償化に伴い、私立学校の高等学校を中心に援助を考えたものとなっております。次に小学校費でございます。本年度予算額が 130,440,000 円で前年度比で 1,800,000 円の増となっております。この中で「4. 1 学年を 35 人学級編制にするための非常勤講師を配置する」ということで、次年度は大磯小学校の 1 年生・2 年生、国府小学校の 1 年生を見込んでおりますので、合計 3 名の非常勤講師を配置するものでございます。次に、予算要求時には「教職員用コンピュータを借上げ」ということで載せてございましたが、中学校費には入ってございますが、教職員の公務用のコンピュータの借上げと LAN 工事等の予算要求をおこなってございましたが、結果的に、次年度は、中学校のみ認められたということで、小学校については、平成 23 年度の整備になります。次が国府小学校のプールの設計委託料でございます。工事は、23 年度の予定でございます。3 ページに移りまして中学校費でございます。本年度予算額が 48,291,000 円で前年度比で 150,753,000 円の減となっ

てございます。主な減額については、国府中学校の耐震改修及び大規模改修工事分でございます。主な事業として、小学校費にも出てきた「8. 教職員用コンピュータを借上げ」でございますが、校務用のパソコンの整備とLAN工事等を行う予定でございます。最後の「9. 国府中学校のグランド整備」でございます。次年度は設計で23年度に改修工事を予定してございます。総額といたしまして今年度予算額が344,606,000円、昨年度比で178,788,000円の減額になってございます。

生涯学習課長) 資料の4ページをご覧ください。生涯学習課に関する予算要求でございますが、はじめに、労働費として「緊急雇用創出事業交付金」を活用した事業でございます。要求内容といたしましては、文化財等資料整理委託事業として、調査によって得られた出土品など、資料の整理作業を行うものです。

次に、社会教育費につきましては、予算要求額としまして20,217,000円となっており、前年度予算額は21,169,000千円で、比較いたしますと952,000円の減となっております。主な理由は、生涯学習館の維持管理に係る予算が増となりましたが、放課後子ども教室の実施に伴う事業が、児童福祉総務費に移行したことにより、全体として減となっております。右側の主要事業等の要求内容でございますが、事業ごとに経常経費に多少の増減はございますが、総合計画や基本方針に基づき、引き続き事業展開を行うとともに、生涯学習関連事業につきましては、ライフステージに応じた各種講座などの充実を図ってまいります。

続きまして、資料の5ページをご覧ください。図書館に関する予算要求でございますが、はじめに、労働費として「ふるさと雇用再生特別交付金」を財源に、図書館窓口等業務委託を行うものです。本年、1月5日から町立図書館本館につきましては、窓口等の業務を榊有隣堂に委託しておりますので、引き続きサービスの充実と効果的な運営を行ってまいります。次に、社会教育費でございますが、予算要求額は68,642,000円となっており、前年度予算額は82,638,000円で、比較いたしますと13,996,000円の減となっております。主な理由といたしましては、職員に係る人件費の減、及び、窓口業務等の委託化に伴い、図書館本館で雇用しておりました臨時職員に係る賃金が減となったことによるものです。主要事業等の要求内容でございますが、施設につきましては各種設備の点検、改修を行うとともに、監視システムの更新を行うなど良好な環境の維持を図ってまいります。また、「大磯町子ども読書推進計画」に基づく事業の推進を図りつつ、第二次計画の策定を進めてまいりたいと考えており、それに伴いまして図書館協議会の開催も増やしてまいります。

続きまして、資料の6ページをご覧ください。郷土資料館でございますが、予算要求額としましては46,633,000円となっており、前年度予算額は44,911,000円で、比較いたしますと1,722,000円の増となっております。増となりました主な理由は、郷土資料館運営委員会の開催回数の増、収蔵資料の保存処理に係る燻蒸委託を隔年で実施しており、今年度が対象年度となっていることと、投資的事業として、施設改修を含めた常設展示のリニューアルに向け、基本設計にかかる経費、老朽化した公用車の買い替えに伴う予算を計上してございます。主要事業等の要求内容でございますが、経常経費といたしましては多少の増減があるものの、施設の保守管理や修繕を行うなど、適正な管理運営を行うとともに、各種講座や学級の開催、企画展の実施など事業の充実を図ってまいります。7点目、8点目は新規事業でございますが、平成20年度の開館20周年記念事業に引き続き、平成21年度は伊藤博文の没後100周年記念事

業などを企画・開催してまいりました。郷土資料館では、施設の改修を含めた常設展示室のリニューアルを実施するため、昨年より検討を進めてまいりましたので、平成 22 年度につきましては、事業の実施に向け基本設計業務を行うための予算を見込んでおります。8 点目は、館が所有する公用車の更新を行おうとするものです。

(質疑応答)

清田委員) 今、いろいろご説明いただきまして段々見えてきましたが、機構改革でスポーツ関係が移ったということで全体で減額されている中での予算設定ですが、前回説明していただいて要求を確認した中でいきますと、合計 4 千万円くらい減っていると思います。町長はよく 3 Kと言われます。観光、環境、教育の 3 本柱が大事と言われてはいますが、この最後のグラフを見ますと非常に経常経費等が削られてきていて、平成 18 年くらいから少しずつ下がって来ている。今、教育は将来の大人たちを作っていくことになりまますのでできるだけ将来を見込んでの予算を作っていけたらなと思います。まず、子育て支援室の方ですけれども、説明していただいて多く削られている部分や何とか持ちこたえている部分もありますが、医療費の場合は中学生の場合が削られたと言うことで残念かなと思います。努力していただいた結果ですのでしかたないと思います。例えば、保育園費につきましても待機児童がいる中で、補助金の要求が受け入れられなかったことは残念だと思います。幼稚園の増額は解体工事のためと言うことで、あと、気になっているのは、私の家の裏に子育て支援総合センターが建設中ですがけれども、あと月京幼稚園の進捗状況をお願いします。子育て支援総合センターの場合、前に頂いた予定より遅れている感じがしますがいかがでしょうか。

子育て支援室長) まず、小児医療につきましてはそのような形で、保育園につきましては一応、民間の法人の方とも定員を増やす方向でいろいろと増築であったり、次の議題の次世代の方でも触れますけれども、空き店舗等を活用することも引き続き協議をしていきたいと思っております。それで待機児童対策が図れればと思っております。子育て支援総合センターとたかとり幼稚園についてですが、たかとり幼稚園については、工程どおり進んでおりました、4 月 7 日が入園式になりますが、3 月中には引き渡し式ができるということで引っ越し等を行う予定で計画を進めております。子育て支援総合センターにつきましては、議会の承認を得てから建築確認等の許可の関係に耐震構造疑惑の関係で審査が厳しくなり審査期間をかなりとられて、その関係から工事が始まったのが 12 月になってからで予定より 1 カ月弱くらい遅れた形で入っております。工程的には遅れが生じておりました、当初は 3 月 19 日が契約工期になっているのですが若干ずれ込んで 4 月の中頃に入ってしまうのではないかとということで、福祉文教常任委員会でも説明させていただきましたが、その方向で進んでおります。当初の予定でも 5 月オープンと考えておりましたのでそのオープンには間に合う予定で進んでいる形です。

石塚委員) 今、ご説明いただいて平成 22 年度の教育予算については総額 6 億 6 千万円ということで、機構改革でスポーツ振興が無くなったとはいえ 7 億の年間予算を切るのは始めてだと記憶しております。町長が常々申し上げているとおり「教育重点の町：大磯」と言っておられる割には毎年、だんだん落ちて来ています。一般会計の話もされましたけれども、82 億 5 千万で最終的に収まるかは

別に、一般会計の方はそんなに減額はしてないような気がします。それに比べて教育費は比率的に減少が大きいような気がします。22年度の教育関係の予算の目玉は何と聞かれると我々は常々学校訪問等を通してお願いされたのは学校の施設の保全、就学前の幼児教育の重点化、世の中のIT化が進んでコンピュータ管理による業務の補助が先生方の負担軽減という面などを柱にして予算要求を教育委員会で検討してきました。1つ有り難いことは中学校の先生方へのコンピュータの配置が予算化できる、これは大きな一歩だと思います。この5百万円前後は中学校は国府も大磯も先生方、全員に渡すものか、一部の先生方だけなのかこの辺をお聞きしたい。それと冒頭に課長からご説明のあった保育園関係の人員費は減ったけれど民営化に伴って諸経費、補助金を補てんしていかなければいけない。サービスの部分では改善されと思いますが、補助金というのはいつ頃まで続くのか、民営化してこれだけ軽減できたねというのが何年後でないと見えてこないのか教えてください。3つ目は子育て支援室の児童福祉費のところでお話のありました小児医療費の助成事業について、従来は小学校3年生までだったのが6年生まで伸びたということは前進したと思います。他の市町村、二宮や平塚はどうなっているのかお聞きしたいと思います。

子ども育成課主幹) 1点目の中学校のコンピュータ購入要望ですが、基本的に両中学校の教職員55名を想定しておりますので、教員全員分と考えてございます。ただいろいろな教員以外にも学校には入っておりますが、そのような先生方には入りません。平均して27、8台で全員分ということですよ。

子育て支援室長) 保育園の先程の委託の件ですが、委託料として増えていくのですが、国の方から民間保育園にすることによって負担金が入ってくる、公立保育園の場合には入っていないので、サンキッズ大磯にしたことによって委託料は増えていますが、国から負担金・補助金が入ってくるので、それを相殺すると削減になる、したがってサービスの面で様々なことが休日保育が始ったりとか、保育時間が延びたりとか対処年齢の引き下げとか改善がなされていて、昨年度で1千万くらいの効果が出ているということがあります。

石塚委員) 今の国からの補助金は未来永劫続くのか。

子育て支援室長) 今の制度では続きます。制度が変更になればなくなる可能性はありますが、今のところなくなる予定はございません。それから小児医療につきましては、今年小学校卒業まで広げた訳ですが、小学校卒業までやっているのが県内で1番拡大している市町村です。確か2市町村くらいしかなかったと思います。対象者の拡大という面では小学校卒業まで拡大しているところは、県内でも数が少ない市町村1つです。二宮町さんの場合ですと小学校3年生までですけれども、所得制限を導入してない、大磯町の場合ですと小学校卒業までですが、所得制限を導入するというものと、担当サイドで議論しているのは中学校卒業まで拡大して、もう1つは小学校卒業までで所得制限を撤廃するやり方もあるのかと考えております。去年の10月小学校卒業までに拡大したのですが、平成22年度予算では中学卒業まで拡大ということで提案させていただいたのですが、今回は予算かできなかったということですよ。

石塚委員) 中学校まで拡大するというのは県下では今のところありませんか。

子育て支援室長) 情報としても今のところ入ってきておりません。

石塚委員) 保育園費について、来年度の新規事業；待機児童解消のため町内に保育所の増改築をおこない定員の拡大を図ると書かれてありますけれども、増改築の場合の費用は町負担と考えてよろしいでしょうか。待機児童は前、9名と聞きましたけれども、来年度の予算で増改築ができるのは何名くらい分ができるの

かお聞きしたい。

子育て支援室長) こちらの増改築につきましては国の方で安心子ども基金という基金がございまして、基金の方から2分の1、事業主体が4分の1、町の方が4分の1という負担割合となっております。現在の待機児童は14、5名というのが現状です。来年度の募集をここでおこなっておりますが、かなり多くなってございます。大磯町の場合、定員がサンキッズ、国府合わせて180名定員ですのでやはり定員を増やしていかないとなかなか隣の二宮町さんですと300くらい定員がありますので、やはりそういう面では定員を増やす策をとっていかないと待機児童対策は解消できないのではないかと考えております。今回増改築することで、30名の定員増ということで計画して予算提案させていただきました。これは先程申しましたが切られてしまった事業です。予算としては付いてない事業です。

石塚委員) そうすると待機児童対策は平成22年度は何も手が打てない。

子育て支援室長) 待機児童対策としてハード面はとして5番の部分を予算要求させていただいているのですが、保育園の4番のところの特定保育事業というソフト事業を考えておまして、事業の方で定員を増にするほどの直接的な大きな経費の改善になるかはわかりませんが、特定保育事業を新たに創設させていただきまして、それを待機児童対策の1つとして活用できないかと提案させていただいております。

石塚委員) 予算は削られてしまって何もなければ、特定保育事業というもので解消を図るということですか。

子育て支援室長) 4番の事業の中で新たに特定保育事業を創設させていただいて、ここで待機児童対策を一部、そこで待機児童の受け入れができないかということを考えて予算要求しております。

石塚委員) 定員が何人増やせませすということは言えない訳ですね。

子育て支援室長) 直接、保育所の定員を増やす事業では無く、新たに民間の保育機関で保育事業をやるという形で一時的に預かるような事業です。

石塚委員) 後で議論しますが、後期の子育ての計画がありますね。そこで大磯町が如何に魅力ある街にするかということで考えると、これは前から出ていた訳で、若い人たちが住める、好んで住む大磯町にしなければいけない。子育てが安心してできる環境であることが大きな魅力として備えないと若者に好んで住んでもらえる町にはならないと思います。保護者アンケートの様子を見ても保育所の機能、サービスは重要になってくるし、町の魅力の一つになってくると思います。待機児童の解消のための予算措置というのは何らかの形で100%できないにしても今年度は50、来年度にかけて100%に達成するそういう見通しを立てて、15名の待機児童の解消が出来るようにしたいと思うのですが。

子育て支援室長) 平成22年度の予算につきましてはハード部分の予算が付きませんでしたので、ソフト部分の事業ということで、予算要求をする際に待機児童の関係につきましては財政課と話をする時も重要性について話をさせていただきました。予算の関係で今回は新しい事業は予算化できなかったのですが、完全な待機児童の解消になるとは限りませんが、少しずつ解消に向けて取り組んでいきたいと考えております。

岩井委員) 教育総務費の中にあります支援を必要とする園児児童生徒の教育支援の推進のため教育支援員を配置するという事で幼・小・中で29名ということで、対象者の数はどれくらいですか。

子ども育成課主幹) 毎年次年度用に担当の方から各学校に支援を必要とする子どもが

どれくらいいるのかという聞き取りと、あと巡回訪問相談もしておりますので、だいたい数は把握しております。1人に対して支援員が1人必要かというところ、そういうケースだけではありませんので、ただ幼稚園の場合には3歳児学級には1人付くというのが基本としてございます。それ以外に年中、年長で支援員が必要な子に配置するものと、小中学校では特別支援教室に通っている子どももいますので、そこの教室に配置するというのが1つと普通教室でも特別に支援が必要だろうという判断で配置をしてございますので、次年度につきましてはこれから配置を考えていく予定でございます。

岩井委員) それによって支援員もこれから人員が増えることもあるのですか。

子ども育成課主幹) 現在、29名と申しましたのは当初は28名でスタートしたのですが年末に幼稚園の方で1名増員をいたして3月の補正でそれを補正しようと考えてございますが、それによっても増額が見込めますので、増員にするのか増額にするのかこれから検討したいと思います。

岩井委員) それに対してですが、少し前に時給を上げる話もありましたが、それは盛り込まれているのでしょうか。

子ども育成課主幹) 要求の段階では現在850円の時給ということで増額ということで要求はしてきたのですが全体の額が若干微増ということで事務局の方で最終的には判断して良いということなんですけれども時給を上げると時間を減らしたり人を減らしたりする必要がありますので、予定としてはなかなか時給までは上げることが難しいかなと思います。

清田委員) 研究所の費用が一括して1つになったということであそこには相談員さんやスクールアドバイザーさんがいられる訳で、私がいた時も時間が足りない中で対応していただいたこともありあました。実際には相談も5時ぴったりに終われば良いのですが、人によっては5時過ぎにお願いしたいという方もいますので、それをお断りする訳にもいかないということで、7時くらいになってしまっても、その後、対応のための情報交換をしていかなければいけませんので、そのことを考えると結構サービスでやっていただいたことがありました。できるだけスクールアドバイザーの時間を削らないような方向でお願いしたいと思います。それと先程の図書費ですが今年度並みというお話がありましたが、要求の時にコンピュータシステムとか備品がありましたその辺はどうになりましたでしょうか。

子ども育成課主幹) まず1点目の適応指導教室、研究所に配属になっているスクールアドバイザーについてですが、確かに清田委員が研究所にいらっしゃった時には非常に多忙な日もございました。年度により多少ずれはありますが、ここ数年は過度な相談事例はそんなにございません。2つ目の図書費につきましては、消耗品は今年度並みということで要求の段階では書架も含めて蔵書が増えればそれを収納するものがほしいということで書架とシステムを同時に要求いたしました。これにつきましては、残念ながら予算がつかなかったということで、ただ学校関係者を含めて保護者の方からシステムを導入して管理をした方が良いのではないかというご意見をいただいていると聞いておりますので、1つの学校だけが先行してという訳にはいきませんので、やるのであれば一斉にということで引き続き次年度も予算要求していきたいと考えております。

清田委員) スクールアドバイザーの件ですが相談が少ない分にはそのほうが逆に好ましいと思います。時間が余って困りますくらいの方が良いと思います。

教育長) 最初に子ども育成課長の方から当初予算で切られてしまったものの中から補正でというお話がありあましたが具体的にお話をいただくと良いと思

います。

子ども育成課長) 冒頭でご説明いたしました財政課の方がなかなかまとめきれない新しい政権になりまして地域活性化・きめ細かな臨時交付金というのが打ち出されまして大磯町に5千6百万円程来るということで、それに対してメニューが難しいのかと思ったら改修工事や修繕工事も対象になるということでそれで教育委員会の方で予算要求していましたが大磯中学校のフェンス、インターチェンジを改修しております、松が無くなりまして今でもフェンスが低いのでボールが出てしまうので危ないということで予算要求したのですが認められなかった、そういった情報が入ったのでこっちにも回してくれないかということで、大磯中学校については、3月補正で前倒しで認められたということです。あと図書館のサッシの取り換えについても認められるということで、また、小磯幼稚園のフェンスの取り換えが当初予算に入っていたのが前倒しで修繕になるということで教育費については石塚委員の方からも年々下がって来るという状況も、全体的な予算で下がって来るのは致し方ないと思いますが、緊急的なものについては、できるだけ手を上げて平成21年度もICT関係の補正もそうでしたが学校備品で切られたものもそういったものを利用して要望して、財政課の方も理解をしていただいて今回の大磯中学校も財政の方からこの交付金でどうかという話が来てぜひお願いしますということでやっていますので、今は国がいろいろな制度を作りますのでできるだけそういう制度があれば活用していきたいと考えております。また、補正の説明の時にくわしく決定いたしましたらご説明したいと思っております。

石塚委員) 図書館のところでご質問させていただこうと思ったのですが、図書館の施設の整備が今度0円だということで心配ですが、補正で最低限の補修はできると考えて宜しい訳ですね。

子ども育成課長) 今、当初で出して切られた分の図書館についても情報としては、臨時の交付金で繰越事業になってしまうと思っておりますが、入っていると聞いております。

清田委員) 図書館の空調の改修もこれでできるということですか。

生涯学習課図書館主幹) 空調の整備も1号機を停止していますが、当初予算で認めていただきましたので、こちらを整備事業ではなく、維持管理事業の方に移行し、予算化しております。

委員長) 学校訪問等で回っていると学校の中でも痛んでいるところがありますが、雨漏りがした後があったり、コンセントがグラグラになっていたりそういう細かい補修は、整備の予算の中で修繕を実施するというので学校の方からどれくらい修繕して欲しいという要望が上がって来ているのでしょうか。

子ども育成課主幹) 緊急を要するものにつきましては、当初予算で与えられた一円費以外のところで補正で上げたりしてございますが、年度当初の修繕につきましては計画的に学校から上げていただいて学校ごとでいうと10件くらいずつありますけれども、その中でこちらで精査して財政課の方に要求し、また査定を受ける形で、全ての要求が通る訳ではありませんが、半分くらいは通していただいているという形です。

清田委員) 新しい指導要領に対応した教材、教具の件ですけれども、理振関係のこれから整備していかないといけないと思っておりますし、教職員の研修もやっていかないといけないと思っております。あと、大磯中学校のフェンスは交付金でできるということですが、大磯小学校のグラウンドと国府小学校の外壁工事についてはカットということですか。すぐやらなくても大丈夫ということでしょうか。

子ども育成課主幹) 新指導要領に伴う備品等の整備につきましては、今年度の予算の段階、昨年度の段階から各学校に要求を上げていただいて、今年度整備をした形になります。理科備品につきましては、国の補助制度がございますので、大磯町では2年に1度という形で要求をしている形になります。今年度その予算立てをして執行している状況で今年度予算に新指導要領に伴う備品整備を考えた形で要求してくださいと言ってありますので、今年度の中である程度整備はされているという前提でもし漏れがあったら次年度もということ、実は要求の段階でこういうのもというのが上がってございます。ですから理振につきましては、要求の段階で上げていたのですが、査定の段階でカットされたということもあって、こちらでもう1度各学校と調整をしてプラスαで要求をしたということ、理振については要求をしないということ、ただ中学校は24年度完全実施で小学校は23年度完全実施ということで、小学校はあと1年、中学校は2年間ということ、もし万が一必要であるということであれば次年度で最低要求していただければ、最低でも間に合う形になると思います。それから工事関係でございますが、大磯小学校のグラウンドについても予算要求いたしました。こちらの方は設計だけでも次年度ということだったのですがそれも通らなかった、1年遅れで次の年には大磯小学校のグラウンドについて要求していきたいと思っております。国府小学校については、この先の件なので未定となっております。

石塚委員) 生涯学習関係もこれから大磯町もそれなりに高齢化社会になっていく流れの中で、中高年層の学習意欲を高めていくのも1つの町としての役目だと思います。これは事前にいろいろと出てきました学び塾といったものも人材登録制度を活用して進めてきたということでこれは非常に良いことだと思います。若いも若きもということになるし、中高年層も対象になるし、こういった新規の事業が推進できる予算は盛り込まれているのか確認したいのと、郷土資料館では新規の事業は特別にはないけれど開館して20年が経過したということで対応をしていかなければいけない。伊藤博文展とかを実施して非常に評判が良い、大磯町の名前を広めるのに非常に大きな役目を果たしてくれたと思います。こう言ったものも少ない予算の中ではありますが、町全体の特別予算を捻出して積極的にアイデアを出して頂いてやっていただきたいと思います。

生涯学習課長) 生涯学習に関する事業についてですが中々やはり新規の事業をするのに新規の予算を貰うのは大変な状況ですので、既存の事業の見直しをする、切り替えをする中で新たな事業の展開をおこなっているのが現状でございます。町の生涯学習の推進としては、講座を開設すると共に、サロンドカルチャー制度ということで生涯学習グループに対する支援がございました。ここに来ましてより細かな年代ごとの学習機会の増設ということで、講座の増設と大磯町の方を活用した人材登録ということで制度を新しく作りました。問題は既存のサロンドカルチャー制度と人材登録制度が全く別のものとして機能しても仕方がないので21年度からサロンドカルチャー制度で町が助成する対象の事業は、町の人材登録者を使っていた場合のみと変えてございます。結果的にはグループごとに教えるのは良いが、広くいろいろな方に教えるのはできないという方もいられたので、実質的には制度を利用する助成が減りました。今度は減ったお金をどうするかということで、新たに図書館をメインとしたダイジェスト版の講座やO I S O学び塾、それと3月に3回程実施を予定していますが、人材登録していただいた方は人材登録を希望する方のオファーが無いと活躍する場が無いということになりますので、こちらの方から全ての方にアン

ケート調査をいたしました。町が開催いたしますので、そういった企画をしませんかということである程度の方から講座をしてみたいという声がありましたので、11月に1回と3月に3回登録者講座ということで、登録いただいている方を町が活用した講座を開催していく形で、既存の事業の見直しを図りつつ新しい必要な事業への展開を図ることを進めているところでございます。

石塚委員) 町内などでも話をすると町史を読みだしている方がいます。さらに解説者がいると面白く楽しく読めるのにとという声がちらほら出て来ています。立派な町史ですのであれをテキストにして講座を開くというような計画が生涯学習課と図書館で協力してやると大磯独特の塾が出来て来るような気がします。そんな大きな予算が掛らないで出来ると思います。それが段々拡大して例えば大磯市民講座とかに発展すれば良いと思いますので1つお願いします。お金はそんなにないけれども、知恵は沸き出るものだと思いますので。

清田委員) 図書館で前回の時に町史編纂事業の関係で収集した歴史資料の分類データ化というのがあったのですが、先程、生涯学習課の国の費用を使つての文化財資料収集事業との関係はどうなのでしょう。

生涯学習課図書館主幹) 前回の資料の中には郷土資料保存活用事業というのがありました。今回こちらの事業は無くなり、図書館運営事業の中で町史の保存を図ってまいります。保存活用事業に、データ化というのがあるのですが、清田委員がおっしゃいましたような文化財のデータ入力ということではなく、目録の作成データ入力する前のデータを作成するのですが、今回の労働費の中ではできないということになっております。平成22年度につきましては、窓口等の民間委託もありましたので、職員でデータ目録の作成を行ってまいります。

石塚委員) これは今回の予算全体に絡んでくるかもしれませんが、小磯幼稚園の将来ですけれども、来年の予算について議論するのに小磯幼稚園の将来というのは欠かせないと思いますが、12月の議会で私どもの提案が否決されるということになってしまったので、身動きがまったくとれない状況だろうと思います。議会で否決されたからと言ってそれで終わりということでは決してないと思います。さらに議論を煮詰めて再提案を一刻も早くしていくべきだろうと思います。来年度内に議会に承認をいただけることになった時にこの予算に何も計上していない訳ですから動きが取れない。そういった事態を心配していますが、承認をいただけた時にどう対応するのかをきちんとプランとして決めておく必要があると思います。

子ども育成課長) 予算の策定と幼稚園の議案と同時進行で進めていましたので、この予算につきましても、可決される前提で可決された後の処理として幼稚園の選考についての委員さんの報酬ですとか、現地視察のためのバス代等は見込んでございます。保護者の方に対する補助金等は見込んでございませんが審査等に関するものは見込んでございます。12月に否決されたからといってあきらめた訳ではなく、次の議会に向けて上程出来るように町長とも協議しているところでございます。

委員長) 質疑を打ち切り、討論を省略し採決に入ります。議案第24号については現案のとおりでご異議ありませんでしょうか。

各委員) 異議なし。

委員長) 異議なしの声がありましたので、議案第24号 平成22年度当初予算における教育委員会予算要求については原案とおり承認いたします。

休憩

委員長) 休憩を閉じて再開します。

協議事項第1号 次世代育成支援地域行動計画(後期計画)【素案】について

子育て支援室長) 次世代育成支援地域行動計画の後期計画ということで素案をお示しさせていただきました。今回は素案ですので今回の改定のポイントなどを示しながら説明してまいりたいと思います。まず、この計画につきましては計画の期間が平成22年度から平成26年度までの5年間となり、平成21年度までは前期計画として進めさせていただいております。後期計画ということになりますので、基本理念、基本方針、基本目標というものは変更せず、行動計画部分の見直しを行うこととなります。45ページ以降が行動計画の内容となります。前半の部分は資料等であったり前期計画の総括であったりアンケートの内容となっておりますので、資料としてご覧になっていただければと思います。内容的には45ページ以降となります。こちらを中心として説明してまいりたいと思います。まず、この計画を作るにあたって後期計画ということで行動計画の部分の特に見直しの柱となる部分を子育て支援室の方で考えておきまして、それにつきましてご説明していきたいと思います。まず先程も話題に出ました待機児童対策について見直しの柱として考えてございます。50ページが第1節ということで、身近な場所で子育て支援を受けられる場所ということで、この表の見方といたしましては、施策が保育サービスの充実でありまして新規拡充という部分につきましては、拡充であったり継続であったり、新規事業は新規、より拡充していくものは拡充といった形で表現させていただいております。事業名はそれぞれの個別の事業ということで内容を書いております。あと、四角で囲っているのが、26年までの5年間でそういうものを目指していこうというもので、特に拡充事業や新規事業というもので重点的に考えていくものについては四角で囲わせていただいております。関係課や関係団体と関わりがある場合には、一番右の方で示されております。話は戻りますが待機児童対策について、まず、保育所の定員の増、民間保育園の増改築、空き店舗を活用した保育園の分園ということで、50ページの保育園の目指す取り組みというところで、現時点ではそこに含めさせていただいておりますが、もう少し大きな見出しとして出すという方法もあるのではないかと思いますので今後それは考えていきたいと思っております。特定保育の実施というのが上から3つ目に示させていただいております。預かり保育の充実ということで上から5つ目に継続といった形で幼稚園における預かり保育の充実ということで、こちらは現状では週1回であったり、どちらかというと幼稚園の保護者の方の休息的な預かり保育というのを実施しているわけですが、その部分を待機児童対策として幼稚園での預かり保育を充実させてはどうかといったところを計画させていただいております。こちらにつきましては先日、次世代の地域協議会という外部の委員の方に入らせていただいている会議を開催させていただいており、そちらの中でも幼稚園の預かり保育をもう少し充実させて待機児童対策に役立てたらという意見も出ております。2番目の柱としては子育て支援センターの関係の項目を今回の後期計画の柱として位置付けていきたいと考えております。内容的には51ページに子育て支援総合センター開設、2段目に子育て支援センターにおける集いの広場の充実という内容がありますが、今年の5月からできますので運営の内容と51ページの2つ目にある東部地区の方に集いの広場というものを設置していきたいということを計画に盛り込んでございます。これにつきましては、保護者の方のアンケ

ートでも安心して遊べる場所等がないというご意見が多い中でこのような位置づけをとりたいと考えております。それとあと、ファミリーサポートセンターの設置ということでこちらは4月に子育て支援センターの設置と共にファミリーサポートセンター事業を開始するという事でこちらを柱として考えてございます。保護者のアンケートの中で安心して遊べる場所、安心して歩ける場所ということで歩道の関係が多くでしておりますので、60ページになりますが、歩道や公園の整備をこちらの方に入れていきたいと考えております、現状では公園等の安全確保④の中に通学路や公園の確保の中に公園や通学路の整備に努めますというのが入ってしまっておりますので、この辺は別出して外に出した中で考えていきたいと思っております。各課とのヒアリングも実施させていただいておりますので、その中では防犯の関係、青パトを今、やっておりますので、あと、防災無線を活用したらどうかとか、というようなご意見もでしております。第2節の部分で言うと58ページの部分で食育の関係を載せてございます。今までも食育はやっていたのですが担当のスポーツ健康課の方で食育推進計画というのができましたので食育の関係というのを充実させていくような方向で、こちらの部分は前期計画の内容になってしまっておりますので、ここは今後変更を掛けるのかと思っております。66ページになりますが、こちらのところに私立幼稚園の就園補助ということで、小磯幼稚園の廃園に絡む内容の町単独の就園補助という項目を入れたらどうかということで4つ目の項目ということで入れさせていただいております。予算のところでも話題となりました特別支援教育の充実というところも今までは入っていませんでしたが、66ページの1番下、68ページの小中学校の1番下、80ページの障害児施設の充実のところ特別支援教育の充実ということで項目として今回は載せさせていただいております。あと、今回の見直しの柱としては幼稚園の統廃合、児童虐待の関心の支援という内容を項目として入れると共に、各課とのヒアリングの中で、民間活力、人材登録制度を活用した小中学生を対象とした講座等を生涯学習課にお願いしたり、民間活力としては国際学園等がありますのでそう言うところに講座等の開設をお願いして、そのようなことを項目立てして行こうということがヒアリングの中でも話が上がっているところでございます。先程、ちょっとご紹介させていただきましたが、この計画を作るにあたって地域協議会という外部の団体の方、小学校の校長先生や幼稚園のPTAの方や主任児童委員さんや保育園のPTAの方、子育てサークルの方、町民公募委員2名が入った団体に12月21日と1月18日の2回開催させていただいております。これからあと2回、計4回開催いたしまして、この計画の策定に当たっては地域協議会で策定していく形になりますので、今現在、2回終わって、あと2回程で計画をまとめていく形になりますが、1月の2回目の会議でも待機児童の関係や児童館の関係、小学生や中学生が遊べるような場所が必要ではないかということや、この計画のご意見の中に48ページに保育園から小学校に上がる際の壁が大きいという話がある中で幼小保の連携が取ればという話が、今も体制的には今年度の4月から教育委員会が両方担当しているということでやっているのですが、意見としてはこのような意見も出ているということでそこら辺の事業を考えたらどうかということで、委員さんから話が出ております。それと、食育の関係、子育て支援総合センターが出来上がりますのでその中で子育てマップなどの作成とかの話も出てきております。今回、計画の素案という形で雑駁に説明させていただきましたが、これであと2月に地域協議会を開催させていただきまして、それからパブコメをホームページ上で半月程度やらせていただき、3月に

最終的に策定という形で進んでおりますので、これがまとまった際にはまた協議させていただく形になりますのでよろしくお願いいたします。

(質疑応答)

石塚委員) 大磯町次世代育成地域行動計画のご説明いただきまして、広範囲にわたる支援行動計画であることを再認識いたしました。やはり大磯町を活力ある魅力ある町にしていくためには、先程、言ったとおり若い人達が好んで大磯町に住んでくれる環境をどうやってつくるかということですね。具体的にこういった行動基準が実施されて町全体に活力が出てくる。その中の子育ての要素というのは非常に大きいことだと思いますね。全てに配慮された計画がこれから組まれるわけですが、私は子ども達の居場所づくりの条件がよそに比べて薄いのではないかなと思います。子ども達の居場所づくりにかなり尽力して進めると非常に良い次世代育成が進められるのではないかと考えております。町内会ごとに子ども会というのが結構ありましたが、特に我が町内では自然と消滅してしまっていて、子ども会としての機能が成り立っていない、従って町内でもよく議論しますが、子ども達をお持ちの保護者のコミュニケーションの場がないんだよねなどと。唯一あるのがお祭りの時なんですよね。年に1度じゃいけないんじゃないかと思って普段から子ども会組織が子どもと保護者だけのつながりではなくて、地域とのつながりが重要だと思うので、変化させて今の時代にあった地域ぐるみのネットワーク作り、昔でいう子ども会を復活させるのも1つの方法ではないかと思います。町ぐるみでの子ども育成、そうするとだんだん居場所の確保だとか安全、安心の確保ができ、若い人が好んで住む大磯町になるような気がします。よろしくお願いいたしますと思います。

子育て支援室長) これも地域協議会の中で出たお話ですが、居場所というところで地域会館を確保できないのかというお話がありまして、以前から、前期計画の時も取り組んだことがあるのですが、地域の考え方がいろいろありまして、他の地区の子は使えないとかそういう問題がありましてなかなか難しいのですがそういった活用もできるように、各地区にある訳ですから児童館といった形で活用ができればというご意見もありました。

清田委員) このアンケートの中にも安全、安心な子どもの遊べる場所ということで、意外に子どもたちが自由に遊べる場所が比較的少ない、その中で町がいくつか持っている土地を活用できないのかなと思っています。

委員長) この中に空き店舗等を活用した保育園等の運営とありますよね。これは他県なんですけれども、そこはシャッター通りの空いている酒屋さんだったところを見て来たのですが、地域の子育て支援センターとしてやっているんですよ。そんなに建物ばかり構えないで、大がかりなものでもなくても空き店舗などの空いているところをうまく利用してそういうのができれば素晴らしいと思います。

子育て支援室長) 東部地区のセンターについても新しい箱物を作るという訳ではなくて、空き店舗や空いてるスペースを使うということを想定しています。

子ども育成課長) 先程、室長からも話がありましたが、地域協議会の中では児童館という子育ての核になるものがほしいという意見はありました。他の市町村では市で持っていないところがありますが、平塚市では子どもの家といった、雨天の日が困る、公園でも雨天の日が困るのでそういったハード整備はあると思います。集いの広場と言った小さなものであれば空き店舗等の活用、できれば公園が近くにあるところで天気の良い日は公園で遊んでという場所を探して

集いの広場については考えていきたいと思っています。

石塚委員) 我々の町内を想定しますとふれあい会館とかの公共施設が通常は満室で使えない。時々、空いている時もありますので、すぐに空いているからといって子どもを集めて何かをやりましょうという申し込みを書いて、許可がないとできないと言う。有料であるかないかは別として空いている時にはどんどん使っていて良いというシステムの変更をしないとなかなか難しいところがあるので、町の施設でも空いている時には使えるシステムの変更をされると利用頻度が上がると思います。公民館は町内で勝手に使っていて良いのでしょうか。

子ども育成課長) 共通部分で誰でもという部分もあるし、申し込みをしてという部分もあります。その辺で町の施設は空いているから誰でもというのがなかなかできませんので、図書館が試験的に空いている時は学習して良いとかやっていますので、イメージ的にはあれよりもう少し広いと思いますが、施設によっては申し込みによる専用もありますし、それがかち合うと利用者同士のいざこざもあり管理者として難しいところがあります。高齢者の福祉計画を作る時も高齢者がどこでも自由にいける場所はないかということで計画の中で話がありまして虫窪の老人福祉センター等は部屋を使わなければ誰が来ても高齢者なら入れるようになっております。そういった大きい建物でないと難しいと思います。子育てをしている人にとっても高齢者にとっても申し込みなしでというご要望はありますけれども、管理者側からすると申し込まなければいけない所と、共通部分が明確に分かれていれば、それはできるのかなと思いますが町の施設だとそういった区別がないので。

岩井委員) 50 ページの保育サービスの充実の中に特定保育と病後児保育というのがありますがその意味の説明をお願いいたします。

子育て支援室長) 病後児保育というのは病気になると保育園は預からないのですが、そういう病気になった子どもを対象にした事業というのがあります。それを大磯町では今はやっていないのですが、国の補助金のメニューにもありますのでそれに取り組んでいきたいということで、今回の計画に載せさせていただいております。特定保育事業につきましては、保育所に入る場合には 94 時間以上働いていないと入れないのですが、パートの方ですとそれ未満の方がおられますので、特定保育事業というものの事態はそういう方を対象とした事業になります。これは民間保育園等に委託して行う訳ですが、保育園の定員数に含まれない事業になりますから、待機だけどうしても預けたい場合に特定保育事業を利用していただいて、当然、通常保育とは違いますので別の料金が係ってしまいますが、所得の低い方には減免措置をすることによって待機待ちの間に一時的に預かれるような事業をやっているというのが特定保育事業です。ただ事業としては保育所に入れない、時間の足りない方に対する事業が特定保育事業です。

岩井委員) 子ども会が沈んでいるというお話を石塚委員がされましたが子ども達の人数が減っているのも原因だと思いますが、親達の意見なども聞いていると自分達を中心に考えて、子どもの目線というものが疎かになった子ども会活動をしているところが、昔からあったのですが以前より増えている感じがします。育成者のあなた達がもう少し考えないといけないんじゃないのと言ってしまえばそれまでですが、そうもいかない事情もあるようで、役員をやりたくないから子どもを子ども会に入れないという悪循環があったりして、育成者をどんな風に育成していくかと言う課題がとてもあるように感じます。その辺のところを指導者育成研修事業として、毎年3月に行っている時にどう言う風に親達を

巻き込んで育成活動を行うか、役員をやるとかやらないの問題ではなくって、もう少し子ども達の目線に立った活動をするための親のネットワーク作りもきちっとして行かないと子ども達が子ども会活動したくてもいろいろな事情でできないので育成者の立場とかを踏まえた研修をしていただけたら違ってくるのかなと思います。

生涯学習課長) 岩井委員が言われたように、子ども達が子ども会に入りたくないということはまずないと思います。やはり、各地区で子どもが減っていますので継続が難しい地区もございます。子ども会活動を続けることが負担になってきて続けることができないという地区もございます。現在、そういった地区に何とか残っていただくのと同時に、大きな地区については1地区で2つとか3つの子ども会をお持ちの地区もございますので、限界を迎える前に運営をしやすい状態に持って行っていただく様なお話もさせていただいております。いずれにしても、幼稚園のPTAのファミリー教室といった事業がありますが、そういった中で交流の場を増やして、子ども会は小学校になりますので小学校に上がった時にいきなり役が回ってくるということがないように、小さなうちから親と子どもが地域の方と交流する機会が必要ですよということで、なるべく事業の方も続けていきたいと考えておりますが、大変難しいことがあるというのが現状だと思います。

石塚委員) 子ども会を通していろいろと子ども達の考え方とか行動も変わって来ているからしょうがないのかもしれませんが、親のネットワークが子どもを中心にできているのですよね。例えば、子どもが成長することによって、子ども会の時代、婦人会の時代、老人クラブの時代と親も世代がどんどん変わる。子どもが中心の時のネットワークがずっと町内会などにも生きていたと言った繋がりが薄れて来ているんですよね。町全体の町内力とかだんだん繋がりが薄くなって来ている。これを密にしてあげるのが大磯らしい町づくりなのかと最近思うようになりました。子どもを中心に親のネットワーク、おじいちゃん、おばあちゃんのネットワークができれば随分違うと思います。そういった行動基準がこの計画に盛り込まれればと思います。

清田委員) 教職をやってきた関係でいくつかの学校で子ども会を見てきて地域との関わりが大きいと感じています。地域が子ども達と関わっていける組織作りが大事だと思います。最初に赴任した学校の場合は昔からのつながりが強くて、子ども会もそうですが、おらが学校と言うところでしたので地域が助けてくれるそう言ったところだったので、何らかの形で地域が関わっていくことは必要だと思います。

子育て支援室長) 地域の関わりという部分も検討させていただきたいと思います。地域との仕掛けという部分で計画は作れるのですが、それを実施する上での仕掛けを行政の方からどのようにしていくかが、実施段階になるといつも地域との関わりが課題になります。私は前、障害者担当でしたが障害者と地域との関わりでどのように見守っていくかというテーマを載せたりするのですが、実施段階になるとうまく仕掛けが作れないケースもあつたりします。子ども会活動は協議会でお話を聞いたりしていても、居場所づくりであつたり生涯学習であつたり成長していくための社会経験であつたり必要だということでは皆さんお持ちでしたので何らかの形で計画に反映させたいと思います。

岩井委員) 性教育に関して前向きに取り組むようなことが書かれていますが小学生の性教育をするのに子どもだけとか親だけではなくて親子一緒に性教育を受けることが一番望ましいと伺ったことがあります。もう1つPTAとの懇談会の

席でも話題になっていたのですが子宮頸がんのワクチンについてもできればこれからの行動計画の中でワクチン接種の助成などもしていただければ良いと思います。11歳から14歳くらいの間に接種をすると2種類のウイルスについては70%くらいの割合で予防ができると報道されています。3回の接種が必要ですが3万円から4万円掛かる状態の中で小学校高学年から中学生にとっては負担が大きいと思いますし、70%の予防は大きいと思いますのでその辺も考慮した計画をお願いいたします。

子育て支援室長) その辺も担当課に確認しながら考慮したいと思います。

教育長) ここでは限られた時間の中ですので、今後、教育委員さん方に見ていただいた中で意見等あれば、個別に連絡いただく形で良いですか。

子育て支援室長) 素案という形でお示しいたしましたので、今後も協議会、パブリックコメントという形で進めて行きまして手直ししていくものですので、ご意見等ありましたらご連絡いただければと思います。

委員長) 委員から意見をいただきましたが、本日の意見が計画に反映できるようにお願いいたします。

報告事項第1号 第8回図書館まつりの実施報告について

生涯学習課図書館主幹) 報告事項第1号図書館まつりの実施報告について、資料に基づきご報告いたします。資料をご覧ください。図書館まつりは、利用者の相互のふれあいの場づくりや、ボランティア活動の技術の向上を趣旨として、大磯図書館まつり実行委員会が主催となり、平成14年から数えて8回目の図書館まつりを、12月13日の日曜日に開催しました。今年は、NPO法人大磯図書館同人大きなおうちが協力しております。内容につきましても、古本市、総入場者数が294名で、昨年比べて若干、少なくなっております。入場料につきましてもは20,780円、協力金と合わせまして、合計28,130円で、こちらにつきましてもは、実行委員会から図書館に対して、図書を購入して寄贈いただく予定です。昨年の古本市の収益金の中からは、図書館に対しまして、児童書16冊、金額にして3万2,697円の寄附を頂きました。2番目のおはなし会についてですが、参加者が22名、やはりインフルエンザの影響で子ども達の参加が少なかったように思います。3番目の書庫見学につきましてもは、合計4名の参加がありました。4番の折り紙教室につきましてもは、櫻田義夫(おだよしお)さんが講師で、櫻田さんは生涯学習人材登録をされている日本折り紙協会の会員でもあられます。昨年度に引続き開催し、15名の参加がありました。5番目の森の手作り広場につきましてもは、今年度、始めてNPOの協力で開催したものです。内容としましては松ぼっくりでクリスマスツリーを作るということで、50名の参加がありました。6番目のTea Roomにつきましてもは、有料と無料の飲み物の提供という内容で、入場者が63名ありました。実費を差し引いた収益は、古本市の収益と一緒に図書館に児童書として寄贈されます。7番目の図書館クイズにつきましても新しいメニューですが、参加者が93名でした。8番目のぬりえにつきましても新しいメニューで参加者は16名でした。9番につきましてもはバルーンアートということで子ども達に対して、風船の犬等をプレゼントいたしました。10番につきましてもは図書館に対するアンケートを実施いたしました。参加人数の総計としましては484名で、実施メニューは多くなっていますが、参加人数は昨年と同じ程度でした。昨年は11月に行

っていたのですが、今年度は 12 月の開催であり、今月 1 月 7 日に開催した反省会では、早めのお知らせをして行きたいという意見が出されておりました。

(質疑応答)

清田委員) 私も午後参加させていただいたのですが、2 階の大会議室で結構参考になるものがあって買わせていただきました。協力金というのは募金箱等があったのでしょうか。

生涯学習課図書館主幹) 入場するところに机があり、入場料の箱の隣に小さい箱を設置しておりました。その収益金が協力金となっております。

報告事項第 2 号 平成 21 年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの実施報告について

生涯学習課長) 報告事項第 2 号、平成 21 年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの実施につきましてご報告します。開催日の成人の日には、会場となりました大磯プリンスホテル国際会議場へ委員の皆様もご来場いただきありがとうございました。当日は、予定どおり 1 時 30 分から式典を行い、終了後、実行委員会が運営する新成人記念のつどいとなりました。式典では、他の自治体で取り上げられているような混乱もなく、新成人の皆さんも落ち着いた雰囲気の中で、20 の記念の式典として予定どおり執り行われました。出席者数につきましては、お手元の資料のとおり町外からの出席者 17 名を含め、新成人 220 名が参加いたしました。出席率につきましては、昨年を上回る 75%となっております。また、来賓の方につきましては、恩師の先生方をはじめ町議会や地域、関係団体などから 60 名以上のご出席をいただきました。式典・記念のつどいにつきましては、青少年指導員連絡協議会の皆様に、会場内外の整理などにあたっていただき、実行委員 14 名の努力もありまして、先ほども申しましたが混乱もなく無事終了することができました。なお、1 月 15 日に実行委員会が開催され、冒頭、ティーパーティーで集めた会費に残金がありましたので、旧吉田茂邸再建基金として実行委員会より町長へ寄附金の贈呈が行われ、町長より感謝状が手渡されました。また、会議では実行委員の皆さんから、「落ち着いた良い式典で思い出になった。」との意見が多く出され、更に良い式典とするための改善点なども寄せられておりました。報告につきましては以上でございます。

(質疑応答)

石塚委員) 良い成人式だったと思います。町外出席者 17 名というはどのような方ですか。

生涯学習課長) 進学とか就職といった関係で住民票を大磯町から移している方は参加の資格が与えられないということになっておりまして、事前お申し込みをいただいた場合、住民票はないのですが案内状をお送りして、出身校のある大磯町で新成人を迎えていただきたいということで、例年 20 名前後の方がそういった形で参加されています。

その他

子ども育成課長) 次回の定例会につきましては 2 月 17 日 9 時から郷土資料館で行います。

午後からは学校訪問ということで月京幼稚園への訪問がありますので、よろしくお願いいたします。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成 22 年 2 月 17 日

委 員 長

委員長職務代理者

委 員

委 員
